

音楽科

鏡 千佳子

共同研究者 西島 千尋（金沢大学）

1. はじめに

音楽科と総合的な学習の時間の関わりについては、これまでもいくつか事例が挙げられているが、その中の多くは音楽劇や地域の伝統文化といった行事での関わりである。本校もこれまではクラス劇に用いる音楽を自分たちで選ぶといった活動での関わりがあった。こうした関わりは一見、表面的な関わりに思えるかも知れないが、実際にはクラスや団体に何か目的を持って一つのものを成し遂げるという過程で、音楽科で育成している資質・能力を生かしている場面だと考えられる。

学習指導要領の総合的な学習の時間の目標には「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す」と記されている¹⁾。探究的な学習を繰り返し行い、自己の生き方を考えていくことのできる生徒を育てていくとき、音楽科の学習が関わることは間違いない。それは音楽科の学習の多くは協働的なものだからである。協働的な学習を生かした研究を進めるため、昨年度は合唱の授業に重点を置いて取り組んだ。合唱の学習は、他者とともにも一つの音楽表現をつくっていく。他者の思いや意図、気付きを共有しながら、よりよい音楽表現になるよう試行錯誤していく過程が、探究的な学習と言えると考えたからだ。自己や他者の思いに留まらず、作詞者や作曲者にどのような意図があったのか、についても思いを馳せることで、楽曲に関するさらなる理解につながり、一人よがりのよさや美しさだけでなく、様々な視点で音楽を捉え、よりよい合唱を目指す姿が多く見られた。

また、教師主導で作り上げていくのではなく、自分たちで課題を見付け、改善していくという活動に重きを置いた。タブレット端末が普及したことで、録音や録画が簡単にできるようになり、これまでより随分と簡便に自分たちの合唱を客観的に捉えることができるようになったことにより、自分たちで課題を見付けやすくなった。そのため、他人事ではなく、自分事として課題を捉えることができるようになった。これまでの合唱の授業では、「この部分の表現方法を工夫しよう」や「パートごとのバランスを改善しよう」など、教師側で課題を設定してしまうことが多かったが、自分に足りないところを自分で見付ける練習をし、それを解決するためにはどのようなことが必要なのか、を自分で考えていったことが、課題発見の力となっていった。自分たちで課題を見付け、意見を出し合ったり、歌ったりしながら表現を磨いた結果、探究的な学習につながり、総合的な学習の時間や本校の新設教科「創造デザイン科」に生かされたのではないかと。今年度は昨年度と同様、表現領域において研究をすすめるが、歌唱分野ではなく、創作分野において音楽科で育成する資質・能力が探究的な活動（探究的な学習を生かした本校の新設教科「創造デザイン科」）のどのような場面で生かされるのかについて、検証していきたい。

2. 探究的な活動（創造デザイン科）と教科等との関わりについて

（1）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力

「創造デザイン科」で実施する探究的な活動には、音楽科で育成する資質・能力の全てが関わっていると言えるが、その中の（1）「曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能」と（2）「音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴く」力の育成²⁾が大きく関わっていると考えている。（1）は知識・技能の資質・能力であるが、技能に該当する後半部分の「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要

な技能」を習得する過程の学習が、探究的な活動に生かされる。これは単に歌がうまく歌える、楽器を上手に演奏できるといった技能ではなく、このように表現したいという思いや意図を表現するための技能である。したがって、自分がこう表現したいという思いをまず持つこと、そしてそれらをどのようにしたら表現できるのかということ、これまでの知識や技能を生かしたり試したりしながら試行錯誤し、表現する技能を身に付けていくという過程である。そして、ただ闇雲に音楽表現をするための技能を身に付けていくのではなく、前半部分の知識に該当する「曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する」ことを通して、曲にふさわしい音楽表現を考えていくことが必要である。また、これらの力を身に付ける際には(2)の思考力・表現力・判断力等の資質・能力も関わっている。これらの力は、決して一時間で習得されるものではなく、何度も繰り返し積み上げていくことで身に付いていくものである。この学習の積み重ねがまさに探究的な学習であり、総合的な学習や創造デザイン科に生かされていくと考えられる。

(2) 探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

音楽科の学習の多くは、他者との関わりの中で行われることを大切にしている。生徒一人一人が自らの考えを他者と交流したり、互いの気づきを共有し、感じ取ったことなどを共感したりしながら、個々の学びを深めていく。このように、協働的に学習に取り組むことを授業の中で繰り返し経験することによって、探究的な活動につながると考えられる。どの分野においても他者との関わりを大切にするが、今年度は、創作分野に重点を置いて研究を進めることとした。昨年度は歌唱分野で研究をすすめたが、創作分野でも同じように探究的な学習につながるのかを検証したい。創作は自分一人で音楽をつくっていくように思われがちだが、作品をつくる過程において、他の作品から学んだり、級友からアドバイスをもらったりしながら、自分の作品をさらによいものへと磨き上げていく。デザイン思考の「創造」「プロトタイプ」のプロセスに沿って、生徒が試行錯誤しながらよりよい作品をつくりあげていく過程を多く取り入れたい。

3. 参考文献

- 1) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年開示）解説 総合的な学習の時間編
- 2) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年開示）解説 音楽編
- 3) 竹内俊一，高見仁志，市瀬 啓(2003)：「音楽活動を取り入れた『総合的な学習の時間』に関するデータベース化と傾向分析（2）」

音楽科 学習指導案

日 時：令和6年11月23日（土）

指導者：鏡 千佳子

場 所：音楽室

1 題材名

音色や音の重なり方の特徴を捉え、リズムアンサンブルをつくろう

2 題材の目標

- (1) 音楽が生み出す雰囲気や表情などと音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- (2) 音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 音色やテクスチャの違いによって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。</p>	<p>思 音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 音色やテクスチャの違いによって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

3 指導に当たって

(1) 教材観

リズムでの創作は、楽器を扱わずに取り組めるので、音楽経験が少ない生徒にも比較的取り組みやすい教材と言える。今回のリズムアンサンブルでは、自分の「手」のみを使って2人一組で一つの作品をつくる。使うのは「手」のみだが、叩き方による音色の違いによって生み出される雰囲気を生かし、イメージに合った作品になるよう試行錯誤して創作できるのではないかと考えた。

(2) 生徒観

1年生は入学後、今回が初めての創作分野の学習である。これまでは歌唱分野や鑑賞領域の学習で既存の曲を学習してきたが、どの学習においても興味のあるものに関しては大変意欲的に取り組む姿が見られた。しかし、音楽の授業に対して苦手意識を持っている生徒もいることから、楽しんで音楽をつくる学習に取り組んでもらいたいと思い、2人一組でリズムアンサンブルをつくる学習を設定した。一人では取り組むのが難しい生徒も、級友と相談しながら進めたり、試行錯誤しながらつくったりすることで、興味をもって創作の学習に取り組む姿が見られることを期待したい。

(3) 指導観

この創作の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は「音色」と「テクスチャ」である。音素材の「手」から生み出される音色を楽しみながら、どのように叩けばイメージに合ったものになるのか、について考えさせたい。また、2人でリズムアンサンブルをつくり上げることから、「だんだん会話が盛り上がっていく様子」や「会話が盛り上がった後の展開」をどのように音を重ねたら表すことができるのかについて、生徒同士で考えを出し合い、試行錯誤していく過程で学習を深めさせたい。

5 指導と評価の計画

次	時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価の観点(評価方法)		
			知	思	態
1	1	<p>◆音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解する。</p> <p>○創作する際の音素材となる音色の特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手（手拍子や指）から生み出される音色の特徴や感じ取ったことをクラスで共有する。 手（手拍子や指）から生み出される音色を選択しながら「だんだん会話が盛り上がっていくリズム」をつくる。 	知 (観察・ワークシート)		↓
	2	<p>◆音色，テクスチャを生かして，どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <p>○表したいイメージをもち，音素材や音の重なり方の特徴を生かして創意工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「だんだん会話が盛り上がり，○○○」をテーマに，前時につくった「だんだん会話が盛り上がっていく」リズムアンサンブルに続いて，後半の「○○○」を自分たちで考え，そのイメージに合ったリズムアンサンブルにするにはどのようにしたらいいか，様々に試しながらつくる。 		思 (観察・ワークシート)	
	3	<p>◆創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け，創作で表す。</p> <p>○表したいイメージをもち，音素材や音の重なり方の特徴を生かして創意工夫し，2声のリズムアンサンブルをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちがつくったリズムアンサンブルを実際に演奏したり，意見を交換したりしながら，つくったリズムアンサンブルについて互いにアドバイスをする。 クラスで発表し，さらにイメージに合うように自分たちの作品を調整する。 	技 (観察・ワークシート)		

6 本時の学習（第1次中2時）

(1) 目標

音色，テクスチャを生かして，どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

(2) 準備・資料等

ワークシート

(3) 展開

○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点など 【評価規準】(評価方法)	時間
<p>○表したいイメージをもち，音素材や音の重なり方の特徴を生かして創意工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもつ。</p> <p>・テーマ後半の「〇〇〇」を考え，リズムアンサンブルをつくる。</p>	<p>・課題や条件</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・「だんだん会話が盛り上がり，〇〇〇」という8小節のリズムアンサンブルをつくる</p> <p>・「〇〇〇」の部分は，会話が盛り上がった後，どのようになっているのかを自分たちで考え，そのイメージに合うようにリズムアンサンブルをつくる</p> <p>・音素材は「手」のみ</p> </div> <p>・前時につくった「だんだん会話が盛り上がる」リズムアンサンブルに続けて，その後の展開を自分たちで考え，つくる。</p> <p>・後半のイメージに合ったリズムアンサンブルにするにはどのようにしたらいいか，様々に試しながらつくるよう言う。</p> <p>・「会話が盛り上がっていく様子」や，「〇〇〇」を表すために，重ね方をどのように工夫したらよいか，試しながらつくるよう言う。</p> <p>・何組かに発表してもらい，「会話が盛り上がった後の展開」のイメージに合ったリズムアンサンブルになっているかを確認する。</p> <p>・級友の作品も参考にしながら，さらによいものになるように調整する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>音色，テクスチャを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>【思考・判断・表現】(観察・ワークシート)</p> </div>	<p>20</p> <p>15</p> <p>15</p>